

## 式辞

春の息吹が感じられる今日の佳き日、第72回滋賀県立膳所高等学校卒業証書授与式を挙げていきますことは、本校にとりましてこの上ない慶びとするところであります。

御来賓の皆様方には、公私ともに御多用の中御臨席をいただき、卒業生の門出に華を添えていただきましたことに、高壇からではございますが厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様には、3年間の高校生活を経て、立派に成長してこの日を迎えられたお子様の姿を御覧になり、感慨も一入のことと存じます。改めまして心からお祝い申し上げますとともに、この間、本校の教育活動に多大の御支援、御協力を賜りましたことに対しまして、教職員を代表して深くお礼申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与された卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんはこの体育館での入学式から高校生活をスタートされ、ここ膳所の地で青春の日々を過ごされてきました。毎日の授業やその予習と班活動などとの両立は大変だったでしょうが、仲間と励まし合いながら、一日一日の営みを積み重ね、高校3年間の課程を全て修了されて、今日の日を迎えられました。その努力を心から讃えたいと思います。

その日々の中には、順調なことばかりではなく、思うようにならないこともあったでしょう。特に、皆さんは新型コロナウイルス感染症が社会に大きな影響を及ぼす中、入学され、昨年度までは、みんなマスク姿での毎日でした。班活動が中止になったり、活動範囲が限定されたりしたこと、お昼御飯を黙って食べなければならなかったこともありました。緊急事態宣言が発令された時には学年別に時差登校をしたこともありました。

けれども様々な困難や理不尽さの中でも皆さんは、いろいろと工夫を凝らし、仲間と力を合わせ、皆さんらしい高校生活を創りあげました。

感染防止に気をつけながら取り組んだ班活動においては、全国や近畿の大会にも多くの班が出場するなど、大変よい結果を残してくれました。九州への修学旅行も、思い切り楽しむ姿と、日を追うごとに集団行動が素晴しくなっていく様子に感心させられました。

3年生では様々な制約がなくなり、マスクを外した皆さんの笑顔が見られるようになりました。湖風祭は「ZeZe Beginnig Carnival～膳身膳霊で挑む湖風祭～」をテーマとして、前例に囚われず、自分たちの手で、これまでとは違う、これまで以上に素晴らしい、新しい湖風祭を創りあげよう、という意気込みが伝わるものでした。膳身膳霊で湖風祭に懸けた皆さんのエネルギーは、爽やかな感動で膳所高校を包み込みました。

湖風祭や班活動での皆さんの姿は、後輩たちの素晴らしい手本にもなりました。皆さんが残してくれたものの大きさに、心からの敬意と感謝を贈りたいと思います。

さて、皆さんはこの学び舎を巣立ち、新しい世界へと進んで行くわけですが、これからの社会は、先行き不透明で予測困難、従来の常識が通用しなくなると言われています。

皆さんが本校で過ごした三年の間にも、社会は変わってきています。特にコロナ禍で加速された社会のデジタル化は、オンライン授業やテレワーク、リモート会議、様々な手続きのオンライン化など、私たちの暮らしや学び方、働き方を変えつつあります。皆さんが2年生の時に登場した生成AIは、数か月の単位でどんどん進化しており、さまざまなサービスが立ち上がっています。これによって産業革命にも匹敵するようなインパクトが社会に起こるであろうと言われています。

こうした時代を生きていくために、皆さんに3つのこととお話ししたいと思います。

1つ目は、「変化に対応する力をつける」ということです。

我が国のAI研究の第一人者である、東京大学の松尾豊教授は、これからのAI時代を生きるにあたっては、変化を嫌がらないこと、変化する側に常に身を置くというメンタリティーが重要であり、身につけたスキルが通用しなくなったとしても、そういうものだと切り替え、つねに勉強しながら自分を時代の変化に合わせていく姿勢が大切だと言っておられます。

社会がどのように変わるか、確かなことは誰にもわかりません。そうした時代においては、常識や前提に囚われず、変化に合わせて対応し、ゼロからイチを生み出していくような力が求められます。変化の大きい時代は、可能性と挑戦の機会も多い、チャンス時代でもあります。

2つ目は、「人間にしかできないことにこだわる」ということです。

AIの進化に伴って、多くの人の仕事が奪われると言われます。これに関して、音楽学者の立場からAI時代のクリエイターのあり方などについて論評されている京都大学の岡田暁生教授は、AIがどれだけ進化しようと職を失わない人の条件として、相手の身になれる、文脈や気配が読める、状況次第で方針を自由に変えられる、ステレオタイプなパターン反復に飽き足りない、予想外のことが大好き、といったことを挙げておられます。逆に言うと、これらはAIが苦手な、AIでは代理ができない人間固有の領域ということになります。

生成AIは自然な文章や絵画、音楽などを作れますが、それらは膨大なデータを学習した中から選び出してつなぎ合わせたものであり、いわばパターンの羅列、パッチワークでできたものにすぎません。一方、人間には、従来のパターンを破るような創造的な仕事も可能です。そのような力を身につけ、伸ばしていくことが大切でしょう。

そして3つ目は、「普遍的な価値を大切にする」ということです。

変化に対応し、創造的な仕事をするためには、人とは違ったことをする必要があります。多様性の時代と言われ、みんな違ってみんないい、と言われます。でも単にそれだけでは「あなたはあなた」「私は私」という考えになり、他者の抱える問題には無関心な、分断化された社会となってしまう恐れがあります。そうならないためには、多様性を認めあう前提として、普遍的な価値を共有することが大切だと思います。

普遍的な価値とは大きな言葉で言えば、民主主義や法治主義、生命・人権の尊重、公平、平等、幸福追求の権利などが、身近なレベルでは、自分が必ずしも正しいとは限らないと考えることのできる謙虚さや、私利私欲に走らず周りに配慮し、他者を尊重・尊敬できること、互いに信頼できる関係を構築できることなど、人が社会を営む際の基本となる事柄が挙げられるでしょう。本校の校訓である「遵義」の「義」すなわち「真理や正義の追究」も普遍的な価値に当たるものです。

皆さんには、これからの社会で大切にすべき普遍的な価値とは何かを考えていってほしいと思います。そして時代を超えて受け継がれてきた本校の精神、校訓である「遵義・力行」を胸に深く刻み込んで、自分らしくそして膳所高校の卒業生らしく、自分の良さや強みを活かして活躍され、心豊かな人生を送られることを願ってやみません。

卒業生の皆さん、名残は尽きませんが、皆さんの前途洋々たる未来への門出を祝福するとともに、御健康と御多幸、そして御活躍をお祈りし、式辞といたします。

令和6年3月1日

滋賀県立膳所高校

校長 富江 宏